**稲垣　道 （いながき・みち）**

**１、プロフィール**

歌人。昭和23年「国原」入会、稲垣浩に師事する。昭和30年「まひる野」入会、窪田章一郎に師事し有力な同人として活躍。昭和53年から平成26年まで「国原」を主宰した。

＜生没＞

1931(昭和６)年10月５日～2014（平成26）年12月24日

＜代表作＞

『冬の園』『母の紋章』『花の流離』『かたかごの花』『光の渚』

＜青森との関わり＞

八戸市生まれ。稲垣浩亡きあと「国原」を主宰。八戸学生短歌協会初代会長、県歌人懇話会副会長を務めた。

**２、作家解説**

昭和23年の16歳の時に啄木にあこがれて歌を作り、デーリー歌壇に投稿し天位に入選。それをきっかけに各新聞歌壇に投稿しはじめる。その年の冬、八戸市の歌誌「国原」に入会し稲垣浩に師事。30年から中央歌誌「まひる野」同人となり、窪田章一郎に師事。稲垣浩の逝去を受けて53年５月より「国原」を主宰。その後「国原」は57年に青森県芸術文化報奨、平成15年に青森県文化賞、平成18年には青森県褒賞を受賞した。平成26年７月の通巻781号より発行所を滋賀県大津市に移し、現在も発行が継続されている。

若い詠み手を育成するため昭和54年に八戸学生短歌協会を結成、初代会長となる。平成元年には「東奥日報」「デーリー東北」の歌壇選者を務め、その後、東北短歌大会、青森県短歌大会、北奥羽短歌大会等の選者を歴任、平成13年４月から26年３月まで青森県歌人懇話会副会長を務めた。著作として『冬の園』（昭48）、日本現代歌人叢書第28集『稲垣道歌集―母の紋章―』（昭60）、『花の流離』（平３）、『かたかごの花』（平８）、『光の渚』（平12）の５歌集、また入門書『歌へのいざない』（昭60）、歌文集『千人針のうた』（昭62）、随想集『女のメルヘン』（平２）がある。

平成26年12月24日、逝去。青森県の短歌の発展に果たした功績は大きく、数々の文化賞を受賞した。歌碑は青森県内に２基建立されている。

受賞歴…北奥羽短歌大会八戸市長賞（昭36）、国原賞（昭44）、青森県準短歌賞（昭52）、八戸市文化奨励賞（昭60）、青森県歌人賞（平４）、青森県歌人功労賞（平７）、八戸市文化賞（平８）、青森県芸術文化報奨（平11）、八戸市文化功労賞（平15）、青森県歌人懇話会創立50周年記念式典記念表彰（平16）、青森県芸術文化振興功労章（平20）

歌碑の歌…

みちのくの水芭蕉めでのぼり来し丘にひそかにキリストの墓

（平成８年６月、三戸郡新郷村キリスト公園に建立）

観覧車まわるよまわれ春の日にはるかの海は未知のかがやき

（平成10年10月、八戸公園子どもの国に建立）

**３、資料紹介**

〇『花の流離』

図書

1991（平成３）年１月１日

190㎜×135㎜

主に昭和57年以降の作品を集めて編まれた第３歌集。狭庭の花あかり（昭和57年－昭和63年）、回想の鎮魂花（昭和27年－昭和57年）長歌５首、花有情（平成元年－平成２年）の三部から成る。この歌集によって稲垣道は第28回青森県歌人賞を受賞した。